

## 令和7年度 全国学力・学習状況調査結果の分析

山北町教育委員会

令和7年度全国学力・学習状況調査が、令和7年4月17日に全国の小学校6年生及び中学校3年生の全児童・生徒を対象に実施されました。

この調査は、児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的にしています。その結果が、7月に文部科学省から送られました。学校は、教科ごとに児童・生徒一人ひとりに個人票を返すとともに、全体の結果を分析したうえで指導と改善に努めています。

### 【教科に関する調査】

教科による内容項目において県公立学校と比較したところ、良好な点及び課題点は次のとおりでした。なお平均正答率では、小学校では国語、算数、理科において県平均よりやや低い状況でした。中学校は国語、数学、理科ともに県平均と同程度の状況でした。

#### 《小学生》

○国語 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけて記述する問題は県平均と比べ、よくできていました。授業や家庭学習で自分の考えを書きまとめる学習の成果が表れています。一方、事実と感想、意見などとの関係性をとらえ要旨を把握することに課題が見られました。

○算数 図形や分数の計算については高い正答率でした。基礎的・基本的な問題は理解できていました。一方、数や言葉を使って答えを書く問題や「思考・判断・表現」が観点の問題では無回答が多く、課題が見られました。

○理科 知識・技能の観点の問題は正答率も高く、基本的な知識の定着が見られました。実験の条件を制御した解決の方法を考え表現することについては課題が見られました。算数同様「思考・判断・表現」の観点の問題に課題が見られました。

#### 《中学生》

○国語 内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えたり、論理の展開に注意して話の構成を工夫したりする問題は高い正答率でした。手紙の下書きから誤っている漢字を見つけて修正する問題では誤答や無回答が多く見られました。

○数学 知識・技能の観点の問題は、どの領域においても高い正答率が見られました。一方、式の意味を読み取り数学的な表現を用いて説明するなど、思考・判断・表現の観点の記述式の問題で課題が見られました。

○理科 どの領域においても、県と同様の回答率が見られました。実験結果の考察をより確かにするために、必要な実験を選択し、予想される実験の結果を記述する問題に課題が見られました。

## 【児童・生徒質問紙調査】

生活面や学習面に関する質問が、小学校 71 項目、中学校 70 項目で行われました。

大部分の児童・生徒が「いじめはどんな理由があってもいけない」と考えていたり、「人が困っているときは、進んで助けていますか」に対しても「助けている」と答えたりなど、他者を大切にしようとする人権意識の高まりが見られました。

「0歳から15歳までの一貫教育・保育」で大切にしている「自己肯定感」に関わる質問では、「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、多くの児童・生徒が肯定的な回答をしています。これには、自分の性格を個性と受け止め前向きに考えることができたり、先生も、それぞれの発達段階で一人一人の良さを認めた関わりができていたりすることが影響していると思われます。今後も、園・小・中の連携を引き続き深めていく必要があります。

小中学生共に、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して肯定的な回答が多くみられました。異年齢との交流により、下学年から頼られる経験や、学習を通して出会った様々な人の生き方を学んだ成果が表れていると考えられます。

小学校では、「学習した内容を見直し、次の学習につなげることができていますか」に対し当てはまる児童が多くみられていました。学習の振り返りが生かされているようです。中学校では「総合的な学習の時間で、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表する学習活動に取り組んでいますか」についてほとんどの生徒が肯定的な回答でした。長期的なスパンで総合的な学習の計画づくりに取り組んでいる成果が表れていると考えられます。

「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」について、否定的な回答をする児童生徒がいました。学校での相談体制を児童・生徒にも情報提供することで、気軽に相談できるようにしていきたいと思います。また、保護者からも学校に相談しやすいように、日ごろから家庭との連携を図っていきます。

## 【今後の取り組み】

- ① 園・小・中学校の教職員が、互いの教育・保育について、より深い理解と子どもたちにどのような力がついたのかという視点で検証し、授業・保育改善に取り組みます。
- ② 乳幼児期の教育・保育で大切にしてきた「非認知能力」「自己肯定感」を継続して育んでいけるように園・小・中の連携教育のさらなる充実を図ります。
- ③ 学校では、基礎的・基本的な知識の確実な定着に向けた学習に取り組めます。
- ④ 学習では、自分の考えを整理し、表現する時間を大切にし、思考力・判断力・表現力の向上に努め、学習に意欲的に取り組める場を設定していきます。
- ⑤ 「0歳から15歳までの一貫教育・保育」カリキュラムを活用し、児童・生徒の育ちと学びを踏まえた教育・保育を展開していきます。